

エンターテインメントという良さをもっと伸ばして、日本のために頑張る都市を目指して欲しい。

—— 株式会社電通九州 クリエイティブディレクション局 アートディレクター 伊藤敬生氏



伊藤 敬生 (いとう たかお)

1962年長崎市生まれ。長崎大学教育学部美術科卒業後株式会社サンリオ入社。サンリオで商品開発に従事。以後、アートディレクター奥脇吉光氏に師事。セゾンカード・ヤクルト珈琲たいむ・住友林業・シャープ・宝酒造・集英社・ポリスターレコード等の広告制作に携わる。その後フリーを経て、電通九州入社。ニューヨークアートディレクターズクラブ金賞等受賞多数。

「アジア」が生活者に届かなくなった 25年

福岡市の新ビジョンを作る過程で、様々な言葉を使って福岡市の生活者に振り向いてもらおうと努力をされていくと思います。しかしながら、最終的に「行政の言葉」になってしまうと、使う言葉によっては生活者に届かない場合が多くなると思います。高島市長も、アナウンサー時代に発した言葉は届いていたのに、市長になってから届かなくなったと感じているかもしれません。

私は仕事でよくクライアントに「書けたことと伝わることは違う」と申し上げるのですが、福岡市の新ビジョンも、何かをきちんとまとめて書き上げても、それが市民に伝わるとは限りません。市民に伝わるような、みんなが心底納得して進めるような方向こそがビジョンになるのではないのでしょうか。そういう意味で、過去に福岡市が「アジア」を掲げた時代は、市民は何の疑いもなくそれを受け入れた、つまり市民に届いたのだと思います。また、仮に当時「リーダー都市」になると言っても同じように市民に響いたのではないのでしょうか。

残念ながらこの10～15年、中国はじめアジア新興国の急速な成長によって、福岡が今「ア

ジア」という言葉を使ったり、「リーダー都市」になると言ったりしても、生活者にとってはリアリティがなく、なんだか白々しく感じられて、言葉が届かないのではないのでしょうか。

「アジア」を気にしなくなる 25年

この20数年、インターネットの普及で我々のようなクリエイティブの仕事のスタイルは大きく変わりました。例えば、CG映像を作る作業をハリウッドとオーストラリアやニュージーランドで協力して進めたりしています。データのやり取りはインターネット経由で出来ますので、海外の生活環境の良い所で人材を雇って、仕事を分担することが可能になっています。また、スカイプなどの通信手段が普及したため、つい数年前までは「会って話さなきゃ」と思っていたのも気にならなくなりました。

私もつい先日まで、シドニーのメンバーとやり取りをしながら仕事を進めたのですが、シドニーと日本は時差があまりないので、遠距離でも共同で作業を進めることが可能です。また、ニューヨークのチームと仕事をする際は、時差が半日ほどあるため、日本で日中進めた仕事を、ニューヨークで引き継いでもらうことで、滞り

なく作業を進めることもできます。そのため、個人的にはアジアではなく、ニューヨークやイギリスといった欧米とのチームワークがやりやすいと感じています。

別の例ですが、少し前までノベルティ（企業名や広告を記して無料で配布する記念品等）を作る拠点は中国の深圳でしたが、それが今ではバングラデシュやインドにも移ってきているように、我々が付き合っていく国は、国内外問わず、距離の遠いか近いか関わらず、どんどん変わっていくのです。

将来を見通すと、私は電話やインターネットの同時通訳機能の進歩が意外に速いのではないかと感じています。ツイッターやフェイスブックのようなソーシャルネットワークを含めて、世界中の情報が瞬時に各国の言葉に変わって行くことで、国際間のやり取りの垣根がさらに低くなっていくと思います。日本人はこれまでシャイな性格からあまり海外とのコミュニケーションが上手く出来ていませんでしたが、コミュニケーションの根幹となる言葉の問題が解決できたら、さらに付き合う世界が広がるでしょう。

もちろん距離の近接性が効く観光のような業界はアジアを重視しないとイケないですが、今後の時代、ビジネスをする上ではアジアという地域を気にすることすら不要になってくるのではないのでしょうか。

恵まれた都市、福岡

ところで福岡は、広告業界から見ると非常に恵まれた都市です。江口カンさんのような日本でも有数の映像を作る人材がいますし、多くのクリエイターが集まっています。

これは、一つに広告のギャランティーがちょうど良い水準にあるからです。もちろん報酬も制作費も東京よりはだいぶ安いですが、九州の他の都市と比べるとかなり高いです。もう一つ

は、福岡ではクライアントの社長など意思決定者とクリエイターが直接話し合える機会が多いので、考えたものを実現しやすい環境にあるからです。これが東京のビッククライアントになってしまうと、作り上げるハードルも高くなり、最終的にクリエイティブなものが実現できなかったり、トップの意思とは違う、生活者に届かないものになってしまうたりします。

つまり、例えば長崎で見られるCMは、福岡で作られようと東京で作られようと、生活者から見れば同じCMですが、それを福岡では、どうにかまかなえる予算で、それなりに良いクオリティで作れる環境にあるのです。

東京からちょうど良い距離にあることや、気候のよさ、生活のしやすさ、交通の便が至極良いことも福岡の恵まれたところですね。恐らく住むだけのことを考えたら、沖縄がいいという人も多くいるでしょうし、沖縄東京間の交通が劇的に短縮されたら私も沖縄に移り住むかもしれません。しかし今はみんな福岡が好きで、出張に来たがる人が多いです。予算はないけど、一泊出張を企画して東京から人材を呼べば、みな喜んで福岡に来て、美味しいものを食べたり飲んだりして、新しい環境で新しいものづくりをしていただけます。

エンターテイメント都市、福岡

では、福岡市は「クリエイティブなまちづくり」をすればいいかという、違うと思います。福岡市は住みやすく暮らしやすいから、居場所として心地よいのであって、クリエイティブ人材を集積させるような独特な個性があるわけではありません。先ほど申し上げたように、既に世界中どこにいても仕事は出来ますので、あえて福岡市に集まらないとイケないことはないのです。

私は、福岡は「エンターテイメント」を前面に出すようなまちになったらいいのではない

かだと思います。「アート」と「エンターテインメント」の差はなくなりつつありますが、個人的にアートとエンターテインメントを定義すると、「アート」は好き嫌いがあっていい、お互いの違いを感じて自分の立ち位置を確認・自覚するためのものだと思います。一方、「エンターテインメント」は、みんなで盛り上がり、同じ気持ちになるためのものだと思います。

福岡市内では様々なアートの取り組みがありますが、本当に素晴らしい美術館がないように、実は「カッコいい」象徴であるアートをよしとしない文化があると思います。逆に、馬鹿なことをしてでも他人を笑わせるようなところに価値を感じる、エンターテインメントな特性を持っているのではないのでしょうか。福岡出身のタレントが多かったり、「熱しやすくさめやすい」と言われたりするゆえんではないかと思っています。

私はこの福岡の良さをもっと伸ばして、もっと市全体が盛り上がり、自分たちがもっと楽しんでまちを引き立てていけば、自ずと結果はついてきて、リーダー都市と言われるような都市になっていくのではないかと思います。

日本のために頑張る都市、福岡

震災後、我々の業界では、東京で活動するより福岡で活動するほうがカッコいい、といった考えも生まれてきていますが、多くの生活者の価値観も変わり、届く言葉が変わってきたと思います。例えば震災前後で「幸せ」という言葉の生活者への響き方は変わりました。震災前では白々しく感じられていた言葉が、みんなが真剣に考える言葉になったのです。

私は、今こそ福岡は「アジア」というこだわりを捨てて、日本のために福岡ができることを考えて、日本のために頑張る都市を目指すいい機会だと思います。そうすることで、やはり自ずとリーダー都市になっていくのではないで

しょうか。人々に届く言葉は、今は「アジア」ではなくて、「日本」だと思います。

ソーシャルネットワークによって国のリーダーが追放されるような時代です。空気を読めないような言葉が出てくると、それに対する意見がすぐにコミュニティとなり力を持つようになります。同様に、行政が空気を読めていないようなビジョンを発信すると、市民はすぐに反感を示すでしょう。逆に、世の中の空気を読んで、それを力にして言葉を発信していくことで、生活者に届くものになるのではないのでしょうか。私は、それは「日本を元気にする」ということだと感じています。

まずは九州のため

先ほど、福岡は広告業界でも恵まれた都市だといいましたが、昨今の景気の影響を受けて、これまでが良かっただけに、九州でも福岡の落ち込みが激しいように感じます。福岡のクリエイター全体が元気をなくしてきていますので、私も九州全体を回りながら、色んな人材と対話をしているところです。その中で感じるのは、九州がきちんと自立して、九州全体が盛り上がり、東北の人々も勇気がわくのではないかということです。

日本は中央と地方の差が意図的に作られてきましたが、震災後の政府の様々な情報隠しを人々が目の当たりにしてきて、もうどんなに政府が国民を説得しようとしても、疑われるような状況になりました。このように行政の信頼が失墜していますので、福岡市の行政が引っ張っていくにはハードルが高いとは思いますが、九州は日本の中でも最も自立が出来そうな地域ですので、福岡がまずは九州のために頑張って、九州を良くしていくことで、日本を良くしていく都市を目指せるのではないのでしょうか。

インタビュー日:2011/8/1 文責:URC 天野